

群 教 セ	I01 - 04
	令4.281集
	特一知的障害

作業学習で学んだことを将来の職業生活につなげようとする事ができる生徒の育成

——導入や振り返りを中心としたICTの効果的な活用を通して——

特別研修員 矢島 茉由子

I 研究テーマ設定の理由

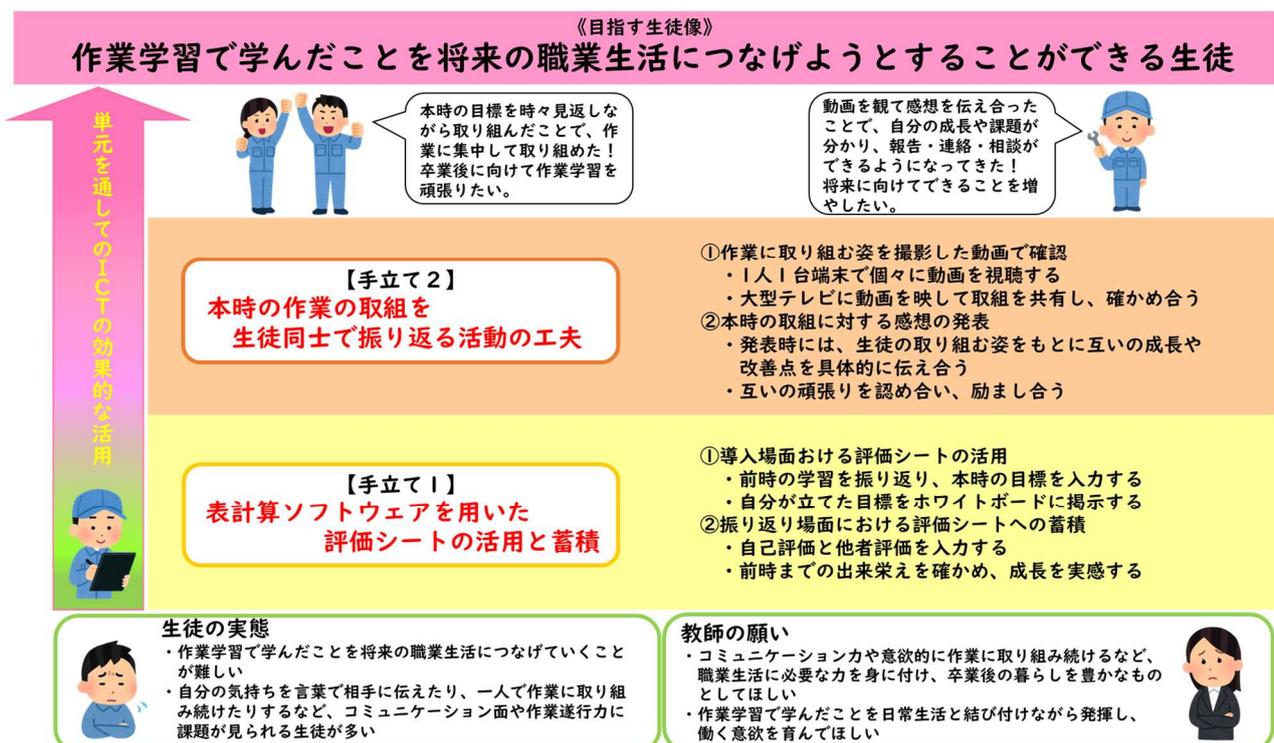
特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）では、「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際、求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する『社会に開かれた教育課程』を重視すること」を示している。

研究協力校高等部の生徒は、日常生活の基盤が福祉型障害児入所施設に限られていることや、社会経験の不十分さにより、作業学習で学んだ知識や技能が断片的になりやすい。そのため、卒業後の職業生活に生かすことが難しく、就労後数年で離職してしまう卒業生もいる。また、自分の思いや意見があっても言葉で相手に伝えることが難しかったり、工程に沿って一人で仕上がり判断しながら作業に取り組んだりすることに課題がある。そこで、作業学習において、総合実習の時間を設定し、現場実習や卒業後の就労場面を関連付けることができるように産業現場等における実習先と連携していく。こうした学びを積み重ねていくことで、職業生活に必要な力を育むとともに、将来の生活にもつなげていくことができるのではないかと考える。

そこで、本研究では授業の導入や振り返り場面において、生徒が自身の姿を客観的に捉えるために、ICTを活用する。作業の様子を撮影した動画を視聴したり、自他の成長の向上や課題の改善を重ねていくための評価シートを用いたりし、主体的に課題解決を図りながら働こうとする意欲を育てていくようにする。以上のことから、作業学習でICTを活用し、日常や働く上で必要なコミュニケーション力や主体性などの身に付けた力を生徒自身が実感していくことで、将来の職業生活につなげようとするようになることができると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

作業学習において、生徒が学んだことを日常生活に結び付けて考え、将来の職業生活につなげようとするができるように、ICTを活用した以下の手立てを設定した。

手立て1 表計算ソフトウェアを用いた評価シートの活用と蓄積

導入や振り返り場面において、1人1台端末による評価シートを活用する。評価シートに示した目標項目に記号を用いて入力することで、生徒が目標の設定や評価の入力が容易となる。導入の場面では、生徒が自身の目標や課題を捉えて学習に取り組めるよう、各生徒が目標項目から本時の目標を大項目ごとに一つずつ設定する。振り返り場面では、設定した目標に対して自己評価を行うとともに、ペアの友達の目標に対しても評価を行い、他者評価として客観的な視点から自己の成長や課題を捉えられる。1シートに各時間の評価の蓄積をしていくことで、これまでの取組を振り返り、次時への学習に生かすことができる。また、自他の評価を共有し、評価を基に互いの成長や課題を認め合い、励まし合うことで、学習意欲の向上にもつなげていく。

手立て2 本時の作業の取組を生徒同士で振り返る活動の工夫

振り返り場面において、生徒の目標に対する学習に取り組む姿を教師が撮影した動画を用いて、本時の感想を発表する。本時の取組を動画で振り返ることで、自身の成長や課題に気づき、更に向上させるための手立てや課題の解決策を考えることにつながる。初めに1人1台端末で、個々に自身の取組を動画で視聴する。その後、動画を大型テレビに映して全員で共有することで、生徒の成長や課題を互いに認め合ったり、たたえ合ったりすることができる。また、生徒が前時までの取組をいつでも振り返ることができるよう、各生徒のフォルダに撮影した動画を保存しておく。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 導入や振り返り場面において、評価シートを活用したことで、個々の目標が明確になり、自己評価の蓄積や他者の取組の共有ができた。また、生徒自身が成長を実感し、更に向上させようとしたり、自身の気づきや他者からの助言を基に、課題を解決しようとしたりするなど、主体的に作業に取り組む姿が見られたことから、評価シートが生徒の働く意欲につながった。
- 生徒が検品や袋詰めなど全工程を役割分担し、生徒が主体となって作業を進めるようにしたことで、自ら他者に関わりをもつ機会が増えた。徐々に生徒が周囲の様子を捉え、「わたしが検品に入ります」と、周囲の状況を判断して作業工程が滞らないよう、自主的に活動に取り組む姿が見られた。
- 目標に対する取組の様子を動画で撮影し、振り返り場面で個々に視聴したり、個々の取組を大型テレビに映し、全員で共有したりしたことで、生徒が自身や他者の活動の様子を客観的に捉え、具体的に成長や課題を伝え合うことができた。
- 2学期の総合実習のまとめの際には、「できることが増えてきたので、日常生活でも意識していきたいです」「卒業後、働くためにはっきりとした報告ができるようにしたいです」など、生徒が作業学習での学びを日常生活や卒業後の生活と結び付けた具体的な姿として発言する様子が見られ、生徒が主体的に学びを日常生活や将来の職業生活につなげようとする事ができた。

2 課題

- 表計算ソフトウェアによる評価シートを活用したが、ICTの操作に不慣れな生徒もいた。入力のしやすさを考慮し、個々の実態に応じた評価シートの作成やICTの活用場面の改善を図っていく必要がある。
- 他者から評価を受けることに抵抗がある生徒もいた。より賞賛を多くするなど、他者評価の仕方の工夫や自己評価の向上に向けて、日常的に他者評価を行っていくことが必要である。

実践例

1 単元名 「ステキな社会人になろう」（第1～3学年・2学期）

2 本単元について

本単元では、卒業後の就労場面を想定し、産業現場等における実習先から提供を受けた作業製品作りに取り組む。生徒の実態に応じて作業内容や役割を教師が事前に決め、検品所や納品場所、部材置き場を設定し、流れ作業で取り組む。生徒が自分で判断して行動を始めたり、生徒同士が必要な事柄を伝え合ったりするなど、生徒が主体的に作業に取り組むことができるような作業環境を設定する。各自の役割を確実に遂行し、作業効率や仲間との連帯感を味わうことができるようにするとともに、個々の生徒の実態に応じた教育的ニーズに合わせて、職業生活に必要なコミュニケーション力や主体性などの力を身に付けられるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 他者との適切な関わり方を理解し、担当する作業内容や依頼などに応じて作業することができる。（知識及び技能） (2) 作業における役割を踏まえて、自他の成長や課題、解決策に気付き、表現することができる。（思考力、判断力、表現力等） (3) 作業の見通しをもち、他者と協力して主体的に取り組むことができる。（学びに向かう力、人間性等）	
評価 規 準	(1) 知識・技能 必要な場面や状況に応じて報告や質問をしたり、互いに声を掛け合いながら作業したりするなど、他者との適切な関わり方をしている。 (2) 思考・判断・表現 自分の役割を確実にやり、自己や他者の成長や課題に気付き、更なる向上や解決に向けた方策を考え、教師や友達に伝えている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 作業内容や手順、作業計画を踏まえ、準備や片付けを含んだ一連の活動に見通しをもち、他者と協力して効率よく、自ら作業に取り組んでいる。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1・2時	・2学期の総合実習の見通しをもち、目標を立てる。
追究する	第3～6時	・作業内容や作業手順、報告の仕方などを覚える。
	第7～16時	・準備から片付けまでの一連の作業工程に慣れる。
まとめる	第17・18時	・2学期の総合実習を通して自身の成長や課題を振り返り、感想を伝え合う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全18時間計画の第9・10時に当たる。作業内容や作業手順、報告の仕方など、作業工程を習熟し、課題を追究していく。単元全体を通して生徒が学んだことを将来の職業生活とのつながりで考え、生かすことができるよう、以下の二つの手立てを講じた。

手立て1 表計算ソフトウェアを用いた評価シートの活用と蓄積

導入の場面では、表計算ソフトウェアによる評価シートを活用して、これまでの就業体験などで共通の課題として挙げられたコミュニケーション力の5項目の中から本時の目標を生徒が一つ選ぶ。また、ホワイトボードにそれぞれの生徒が立てた目標を掲示することで、目標を確かめながら作業に取り組むことができる。振り返り場面では、どの生徒も短時間に簡単な操作で行えるよう、評価シートの項目ごとに◎、○、△の記号で自己評価をしたり、数値として自己の高まりを実感できるように、自身の評価を項目ごとに点数化して示したりする。また、客観的な視点から自己の成長や課題を捉えることができるよう、二人一組となり、ペアの友達の評価（よくできたところに○、もっとよくなる場所に★）を選んで入力する。さらに、1シートに各時間の評価を蓄積していくことで、他者と今までの成長や課題を確かめ合いながら次時の学習に生かすことができる。自他の評価を共有し、評価を基に互いの成長や課題を認め合い、励まし合うことで、働く意欲の向上にもつなげていく。

手立て2 本時の作業の取組を生徒同士で振り返る活動の工夫

評価の視点を絞って振り返りを行うことができるよう、各生徒の目標に対する作業に取り組む姿を教師が撮影する。1人1台端末で、自分とペアの友達の動画を視聴してから評価をし合う。発表の際には、それぞれの生徒の取り組む姿を大型テレビに映し出し、全員で視聴することで、自他の成長や課題を作業グループ全員で共有することができる。発表時には、自己の評価とその理由や、友達のよくできたところともっとよくなることを生徒自身の言葉で具体的に伝えることで、生徒の成長や課題を明確に示し、本時の取組を認め合ったり、励まし合ったりすることができる。自分の言葉を整理して伝えることが難しい生徒には、ワークシートを用意するなど、個々の生徒の実態に応じた表現方法を用いることで、自分の気持ちを文章にまとめてから発表できるようにする。また、生徒が前時までの学習をいつでも振り返ることができるよう、それぞれの生徒の授業に取り組む姿の動画を各生徒のフォルダに保存しておく。

4 授業の実際

(1) 「つかむ」過程（第1・2時）

単元のめあてを設定する際に、2学期の就業体験で活用した評価シートや日誌を用いて個々の就業体験での課題を生徒に問い掛けると、「分からないことを自分から聞けなかった」「疲れて長時間作業に取り組むことができなかった」と答えた。作業グループの全体目標を設定する際には、産業現場等における実習先の方からの話を想起させると、「卒業後に必要な力はコミュニケーション力」と発言する様子が見られた。そこで、作業グループ全員で相談し、本単元の全体目標として「自分から報告・連絡・相談をしよう」を設定するとともに、単元における個人目標を立てて評価シートに入力した。

(2) 「追究する」過程（第3～17時）※本時は第9・10時

導入の場面では、評価シートを活用して、コミュニケーション力と作業力の各5項目の中から一つずつ、本時の目標を選ぶようにした。図1のように一枚の評価シート上にある前時の学習を振り返りながら、自身の課題を捉えて目標を立てることができた。また、本時の目標を確かめながら作業に取り組めるよう、コミュニケーション力の中から選んだ目標をホワイトボードに掲示した（図2）。自身の目標と共にペアの友達の目標も自ら進んで確認する姿が見られた。振り返り場面では、1人1台端末で本時の目標に対する作業に取り組む姿を撮影した動画を視聴し、自己とペアの友達の評価を入力した。自己評価においては、評価項目ごとに点数化して合計点を出し、数値として自己の高まりを実感できるようにしたことで「今日は満点」と嬉しそうにペアの友達に話す生徒もいた。ペアの友達の評価においては、よくできたところと、もっとよくなることを一つずつ選んで評価を入力するようにした。図3のように繰り返し動画を再生して取り組む姿を確かめたり、動画から発言内容を聞き取ったりしながら各自で振り返る様子が見られた。自分の言葉を整理して伝えることが難しい生徒には、ワークシートを使用して自分の気持ちを文章でまとめてから発表できるようにした。本時の学習の感想を発表する際には、作業に取り組む様子を全員で共有できるよう、まず、ペアでそれぞれの取組に対する自己評価と他者評価を伝え合うようにした。その後、発表した生徒の取り組む姿を大型テレビに映し出した。動画を観ることで、それぞれの生徒の成長や課題が明確になり、教師が他生徒に「今の友達の取り組む姿はどうでしたか」と問い掛けると、「できていた」と発言したり、自然と拍手が起こったりするなど、生徒が互いの頑張りを認め合い、励まし合う様子が見られた（図4）。



図1 本時の目標を設定する



図2 本時の目標を掲示する



図3 動画を視聴し評価する



図4 感想を発表し、認め合う

(3) 「まとめる」過程（第18・19時）

評価シートに2学期の総合実習の感想を入力した。3学年の生徒は「相手に伝わる適切な声で話すことを頑張りました。卒業後、働くためにはっきりとした報告ができるようにしたいです」「目標を達成できないこともあったけど、目標を意識して作業に取り組めてよかったです。卒業後も、もうちょっと大きな声で挨拶や返事を相手に聞きやすい声で



図5 生徒が実習先に電話で要件を伝える

頑張りたいと思いました」など、単元における自己の学びや将来への思いを友達の前で堂々と発表する姿が見られた。また、職業生活を見据えて外部とのつながりをもてるよう、製品を納品する際には、部材の提供を受けた産業現場等における実習先に生徒が電話をする機会を設けた（図5）。納品の日程や次回の部材の提供についての必要事項を相手に分かりやすく伝える姿が見られた。

5 考察

手立て1では、導入の場面において、評価シートを活用し、本時の目標を設定したことで「前回できなかったから、今回はここを頑張ろう」と生徒が発言する姿が見られた。また、自分が立てた目標をホワイトボードに掲示し、時々ホワイトボードを見て目標を確かめながら作業に取り組めるようにした。作業途中で本時の目標を教師が問い掛けると、自分の立てた目標を即答する姿が見られ、目標を意識して作業に取り組む上で手立てが有効であったと考える。また、振り返り場面では、ペアや全員で各生徒の取組を評価し合ったり、評価項目ごとに点数化して合計点を出し、数値として自己の高まりを実感したりすることができるようにした。表計算ソフトウェアを用いて評価を行ったことで、毎時間の自己評価と他者評価を蓄積して共有することができ、評価項目ごとの自他の成長や課題を可視化し、それらを次時の目標として向上させようとしたり、改善したりする意識を高め、単元や本時のねらいを達成するために有効であった。

手立て2では、振り返り場面において、1人1台端末で本時の目標に対する作業に取り組む姿を撮影した動画を視聴し、自己とペアの友達の評価を入力した。繰り返し動画を再生して取り組む姿を確かめたり、動画から発言内容などを聞き取ったりしながら各自で目標に対する自他の取組を振り返ることができた。本時の学習の感想を発表する際には、初めに自分なりの理由を付けて自他の評価を伝えるようにした。次に作業に取り組む様子を全員で共有できるように、発表した生徒の取り組む姿の動画を大型テレビに映し出すようにした。そうしたことで、目標を達成した姿を友達と確かめ合いながら、自然と生徒から拍手や賞賛の言葉が出るようになった。また、動画を基に「部材が足りないときに報告できていました」と、友達から具体的な姿として肯定的な評価を受けることができ、成功体験につながったと考える。作業の様子を動画で振り返ったことで、自身の姿や友達の頑張る様子を客観的に捉えることができ、「動画で観ると目標を達成したことが分かる」と発言する姿も見られた。動画を通して、成長や課題を具体的に捉えて生徒同士で伝え合うことができ、自他の行動を見直したり、他者からの賞賛を受けて認め合ったりするために有効であった。また、授業後には「作業は疲れたけど、最後までやり遂げた」と話す様子も見られ、自己肯定感の向上にもつながったと考える。

2学期の総合実習のまとめの際には、「できることが増えてきたので、日常生活でも意識していきたいです」「卒業後、働くためにはっきりとした報告ができるようにしたいです」など、生徒が作業学習での学びを日常生活や卒業後の生活と結び付けた具体的な目標として発言する姿が見られ、生徒が主体的に学びを日常生活や将来の職業生活につなげようとするところが見られたと判断できる。

以上のことから、導入や振り返り場面において、ICTを活用し、目標を設定して評価をしたり、各生徒の本時の作業の取組を全員で共有したりして、互いの成長や課題を伝え合うことは、生徒が職業生活に必要なコミュニケーション力や主体性などの力を身に付け、将来の職業生活につなげようとするために有効であると考えられる。自己評価の向上に向けて、互いに働く意欲を高め合うための集団づくりを心掛け、今後も学習を継続していくことが大切である。また、ICTの操作に時間を要する生徒もいたが、学習を重ねることで操作に慣れ、概ね自分で扱うことができるようになってきた。生徒の実態に応じてICTの有効な活用の仕方を工夫していく必要がある。

6 資料

○ 表計算ソフトウェアを用いた評価シート

2 学期 総合実習 評価シート

全体の目標

自分の目標

2 学期終えての振り返り

本時の目標を一つ選んで☆を入力する。

他者評価は、ペアの友達のよくできたところに○、もっとよくなる場所に★を選んで入力する。

コミュニケーション力	10月4日													
	自分		友達		自分		友達		自分		友達			
	目標	評価	よくできたところ	もっとよくなるところ	目標	評価	よくできたところ	もっとよくなるところ	目標	評価	よくできたところ	もっとよくなるところ		
1 自分から大きな声であいさつ・返事ができる。														
2 相手に伝わりやすい声で報告ができる。														
3 自分から先生やリーダーに連絡や相談ができる。														
4 分からないことをはっきりと質問できる。														
5 指示を待たずに自分から次の指示を聞くことができる。														
作業力														
1 時間（開始、終了）を守ることができる。														
2 自分から準備や片付けができる。														
3 手順どおりに作業できる。														
4 ミスなく、正確に作業できる。														
5 時間いっぱい作業できる。														

点数

点数

点数

点数

☆ ◎ とてもよくできた

○ ○ できた

○ △ もう少し

★

10点

5点

1点

100点満点

10項目の合計点を出して入力する。